

Reborn SKYPARK

アクションプラン（活用計画）

「Rural inn ザ・スカイパーク」

これまでの経過① 行政改革推進委員会からの提言（2017年12月）

多角的経営を改善し、経営の見える化を図るため3部門に分けそれぞれの経営形態のあり方を示す。

①収益部門

「宿舎」「スキー場」

→ 指定管理者制度により、民間事業者へ委託

②非収益部門

「キャンプ場」「パークゴルフ場」「展望台」「運動広場」

→ 民間への賃借または指定管理者制度の活用

③その他部門

「牧場」

→ 公共的な位置づけとして検討

※その他として、将来ビジョンへの提言

「地域価値の確認」「民間×行政の連携」

「活用されていないエリアの展開」「集客力の拡大」

「町の誇りとなるようなコンセプトの設定」など

これまでの経過② 第5期芽室町総合計画（2019年3月）

第5期芽室町総合計画の「新嵐山スカイパークの基本方針」に基づき、設置者である町として適切な施設管理を行い、「町民にとっても自慢できる、誇ることのできる新嵐山スカイパーク」を目指すため、施設活用にあたり町として導入を予定している機能・手段は次のとおり。



町として導入を予定している機能・手段

- **着地型観光を推進するための中心的な施設（観光拠点）**
- **女性を起点にファミリーなど幅広い層が楽しめる施設**
- **豊かな自然や地域のおもてなしなど、地域資源を活用した新しい魅力づくり**
- **民間事業者活力との連携による取り組み**

これまでの経過③ サウンディング型市場調査の実施（2019年6～7月）

民間事業者から広く意見やアイデアをいただき、新嵐山スカイパークの市場性等可能性を調査、把握する。

①対象施設（現指定管理施設）の活用

→ 宿泊施設とキャンプ場の融合やスキー場ゲレンデの活用など施設の周遊性といったエリアの特性を生かしながら相乗効果を図る必要があるとの提案を受ける。

②民間による事業展開

→ 部分的な整備・運営において参加や協力を希望する事業者もあり、民間事業者による事業実施の可能性について確認する。

※対象施設以外の活用についても提案あり

「展望台」「運動広場」「牧場」「周辺の農道」など

これまでの経過③ サウンディング型市場調査の実施（つづき）

事業運営に関する提案

①対象施設を活用した事業展開

→ エリア全体の運営を希望する事業者は8事業者のうち1事業者

②事業運営を行うことへの課題

→ ・体験型サービスの提供など半日または1日過ごせる環境づくり
・夏場の集客 ・冬期間における宿泊への誘導

③町に求める支援

→ ・施設の維持管理にかかる費用の支援
・インフラ整備費用の支援 ・運営スタッフの確保

④参入する際の条件

→ ・夏場のリフト運行 ・事業運営に対する協力体制
・コンセプトの統一及び連携体制の構築



Reborn SKYPARK



検討結果 具体的アクション

芽室町行政改革推進委員会からの提言やサウンディング型市場調査における提案など、これまでの経過を踏まえ、新嵐山スカイパークの活用計画（アクションプラン）を策定し、具体的なアクションを示す。

- ①ビジョンの設定
- ②テーマの設定
- ③ターゲットの設定
- ④既存フィールドの見直し及び新規フィールドの活用
- ⑤既存施設のリノベーション（再生・改革）
- ⑥管理運営の手法（民間活力の導入）
- ⑦新規事業の導入

具体的アクション① ビジョン

①ビジョンの設定（7年後のスカイパーク）

→ この町にしかない地域価値（景観・食・人）
が体感できる Rural inn ザ・スカイパーク

〈注〉 Rural inn = 農村地帯の宿

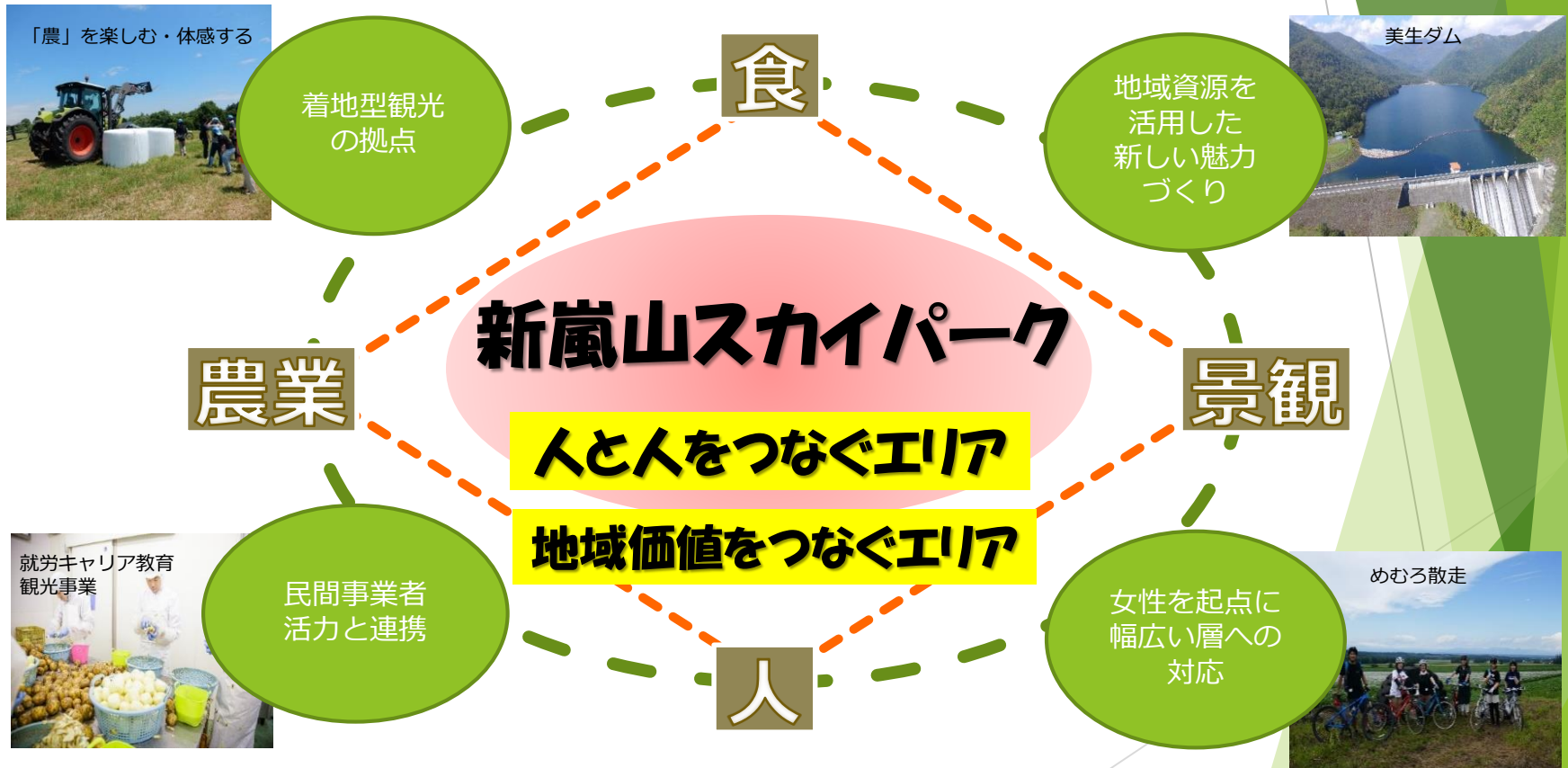
リュラル イン

基幹産業の農業をベースに、芽室町のすばらしい景観
安全安心な食、そこに携わる人は、この町にしかない
町民が誇りに思う、自慢できる芽室町の宝物であり、
これらを地域価値として捉え、多くの観光客に地域価値
を体感してもらうエリアとなることを目指す。

※第5期芽室町総合計画の終期である7年後の2026年を想定

具体的アクション① ビジョン（つづき）

この町にしかない地域価値が体感できる新嵐山スカイパーク



②テーマの設定

→ 小麦の穂が揺れる。仔牛の鳴き声で目覚める。
そんなRural innで過ごす時間は訪れる人にとって非日常。「行ってみたい」から「過ごしてみたい」に、「過ごしてみたい」から「住んでみたい」と思える“めむろ”を体感する。

新嵐山スカイパークは、のどかな農村風景に囲まれた中にあり、そこで過ごす時間は町民にとっては日常であるが、訪れる人にとっては非日常の体験である。このエリアの強みを活かし、「行ってみたい」から「過ごしてみたい」に、「過ごしてみたい」から「住んでみたい」と感じてもらえるエリアづくりを進める。

③ターゲットの設定

- 町民及び町外からの来訪者がターゲット
 - ・ 町民 = 地域の魅力（誇ることのできる、自慢できる場所として）を認知してもらう
 - ・ 町外からの来訪者 = 宿泊、日帰り利用により交流人口の増を図る

町外からの来訪者については、おしゃれや流行に敏感でSNSの活用など情報発信力の強い「女性」を起点にファミリーやインバウンドなど幅広い層への展開を図る。

具体的アクション④ フィールド見直し&新規活用

④既存フィールドの見直し及び新規フィールドの活用

→ エリア全体を一つの宿として捉え、ビジョンに基づき、テーマに沿ったフィールドづくりを展開

プラン1 ～ 宿舎・キャンプ場からステイフィールドへ変革

エリア内の様々な場所に泊まれるフィールドを設置し、ゲスト自身が滞在スタイルを選択できるように既存施設を見直す。



※イメージ図

具体的アクション④ フィールド見直し&新規活用（つづき）

プラン2 ～ スキー場からスノーフィールドへ変革
スキーヤー・スノーボーダーのみならず、子どもから大人まで雪遊びを楽しむことができるよう、既存施設を見直す。

プラン3 ～ 展望台からスカイフィールドへ変革
新嵐山展望台からの風景は芽室遺産にも認定されているこの町の宝物であり、エリア最大の強みである。これを最大限に活用できるように既存施設を見直す。

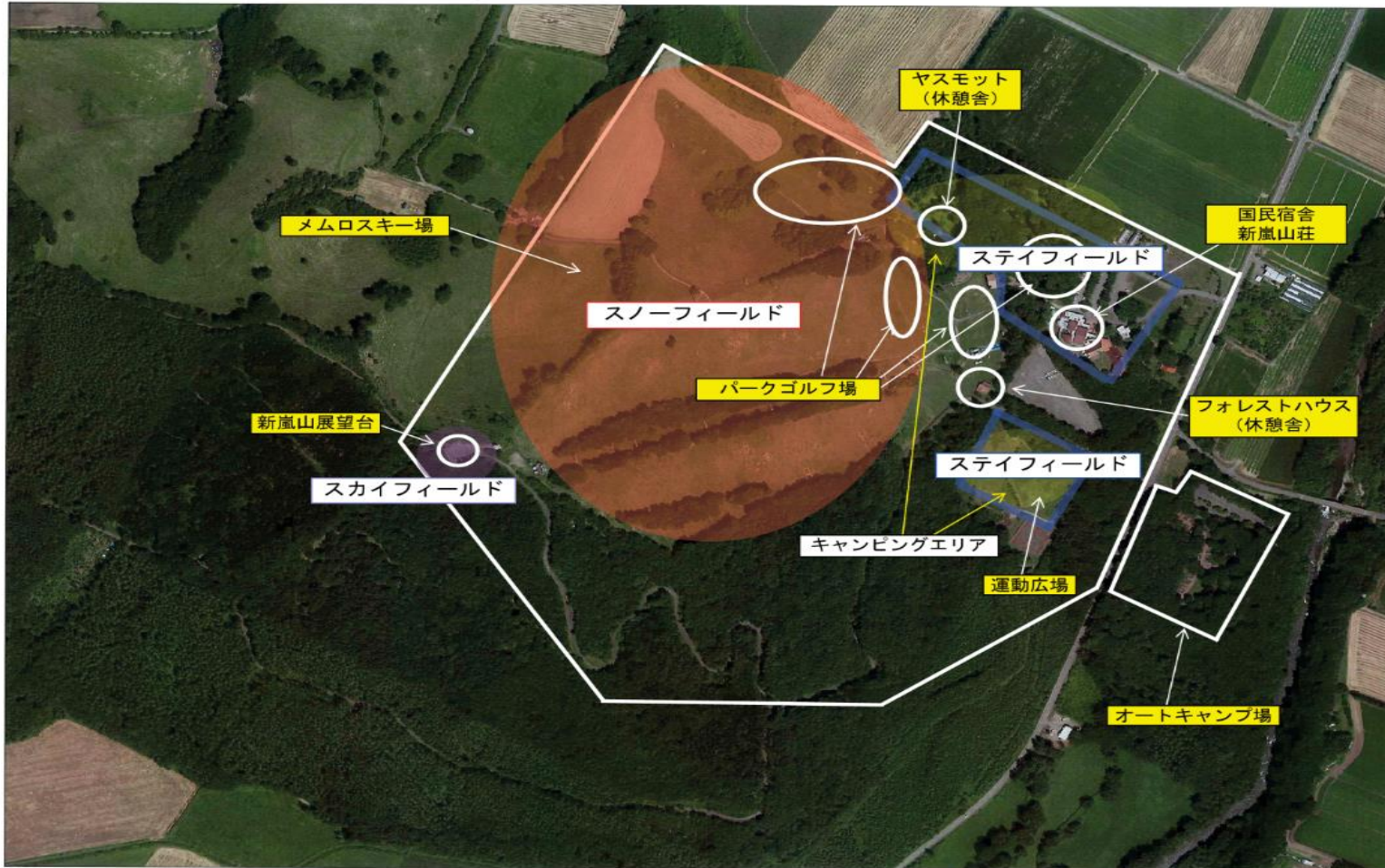


※イメージ図

プラン4 ～ 新規フィールドの活用
放牧地として使用している牧場や普段利用されていない運動広場等の施設について、テーマに沿った活用を図る。

具体的アクション④ フィールド見直し&新規活用（つづき）

S=1:5000



⑤既存施設のリノベーション（再生・改革）

→ 既存フィールドの見直し及び新規フィールドの活用に基づくプランを具現化するため、既存施設のリノベーションを実施

リノベーション1（ステイフィールドアクション）

- ・ 宿舎のリニューアル
 - コンセプトに基づくテーマを表現した雰囲気づくり
 - ・ 森に泊まる【Forest inn】の設置（PG場Aコース内）
 - ・ キャンピングエリアの設置（グランピング、オートサイト)
 - ランニングコスト（人件費・保守費用）の削減
管理の効率化
- ①現オートキャンプ場の廃止 ②パークゴルフ場の見直し
③ヤasmottの活用 ④フォレストハウスの活用

具体的アクション⑤ 既存施設のリノベーション（つづき）

リノベーション2（スノーフィールドアクション）

- ・ 索道の改修（リフト統合の検討）
 - ランニングコスト（人件費・保守費用）の削減
- ・ 夏場のリフト運行
 - スカイフィールドへの輸送手段の確保
 - ジップラインの導入（キッズパーク併設）
- ・ スキー、スノーボード以外の雪を使った遊びの提供
 - 誰でも気軽に雪遊びを楽しめるようアクティビティの充実を図る
 - （スノーラフティング、ファットバイクなど）

リノベーション3（スカイフィールドアクション）

- ・ スカイテラスの設置
 - 芽室町の絶景を楽しむ環境づくり
- ・ 仮設店舗設置による食の提供（キッチンカーなどの活用）
 - スカイフィールドで過ごすための手段

具体的アクション⑤ 既存施設のリノベーション（つづき）

リノベーション4（新規フィールドアクション）

・牧場の活用

→ 放牧地として使用している牧場（夏のゲレンデ）について、管理に支障のない範囲内でテーマに沿った活用を図る。

①グリーンシーズンのアクティビティフィールド（マウンテンバイク、バギーなど）

②絶景ロッジの設置

・運動広場の活用

→ 不定期開催のイベント利用のみとなっている運動広場について、管理の効率化を図るため、キャンピングエリアとして活用する。

①オートサイト（車の横にテントが張れる）の設置



※イメージ図

※リノベーション1から4までの下線部分は
公共による投資（新規・改修）を想定



Reborn SKYPARK



リノベーション・プラン

リノベーション1 ステイフィールドアクション

○宿舎のリニューアル（客室）

※現況：国民宿舎新嵐山荘



※現況：客室



※イメージ



・テーマに基づく雰囲気づくり



リノベーション1 ステイフィールドアクション

○ 宿舎のリニューアル (レストラン)

※現況：国民宿舎新嵐山荘



※現況：1F レストラン



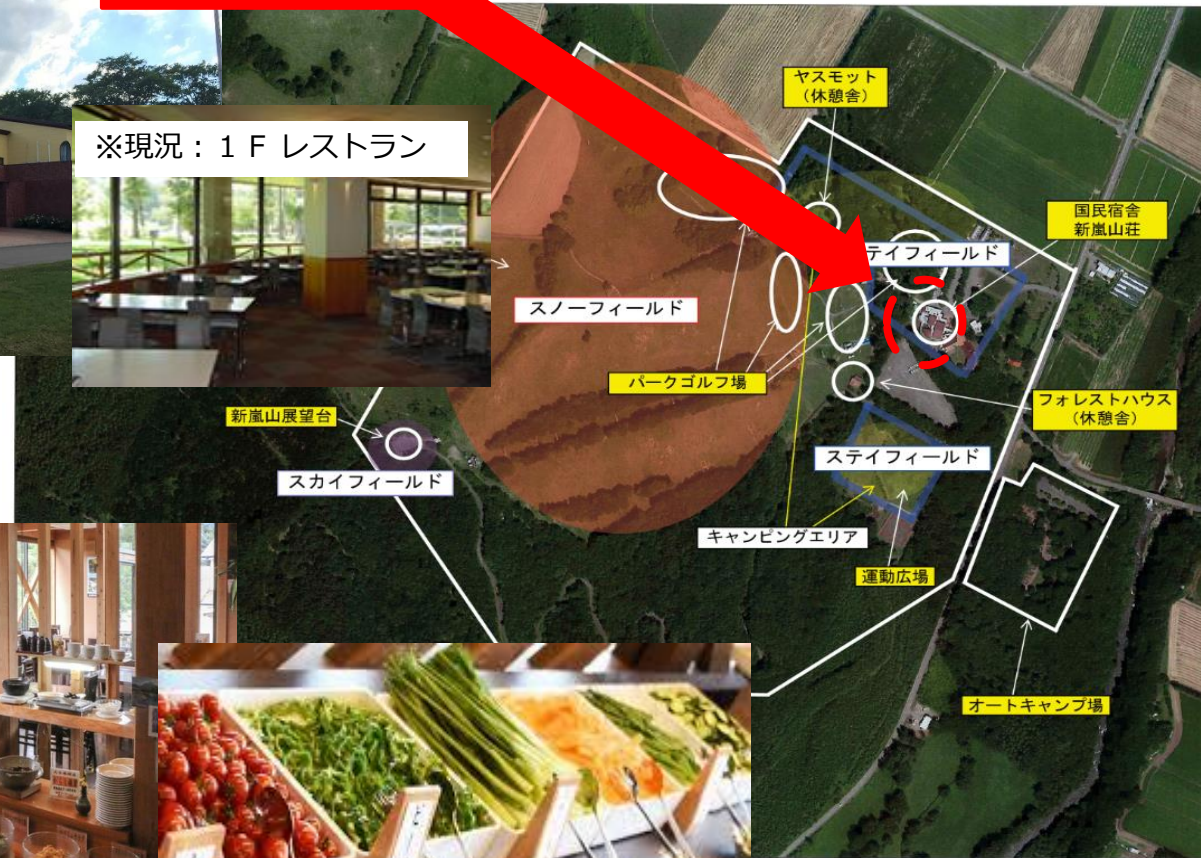
※イメージ



・地域性を活かした
コンセプトレストラン



・芽室町の食材発信



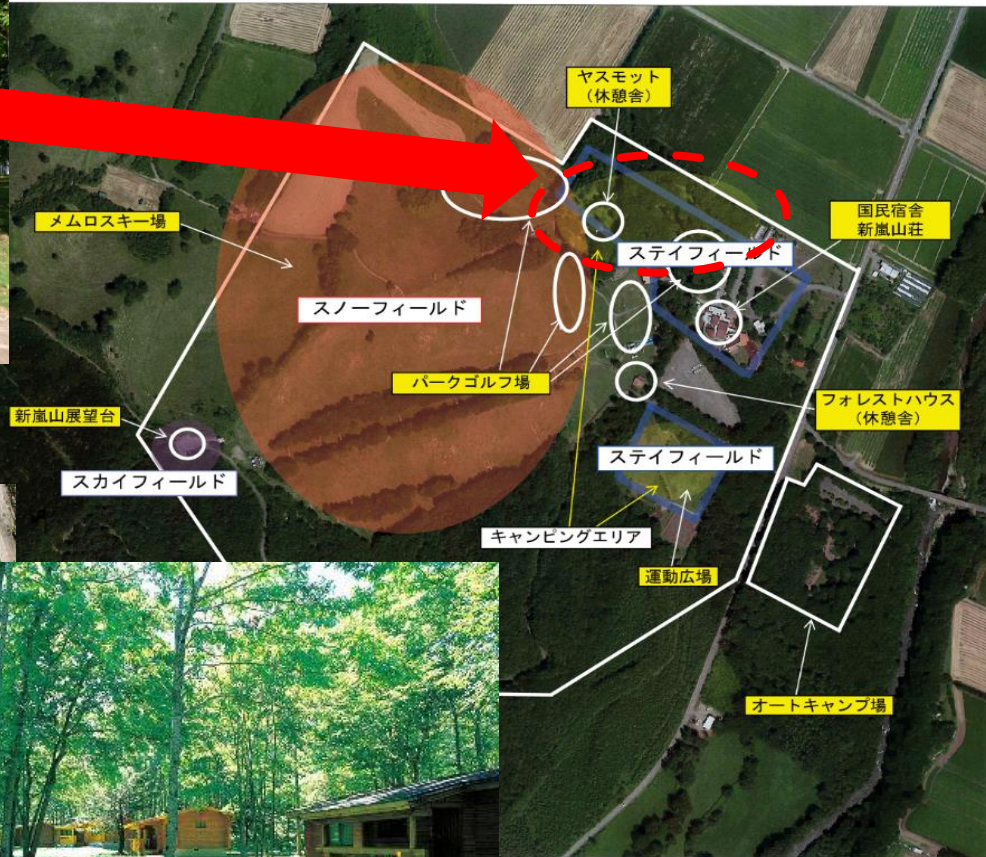
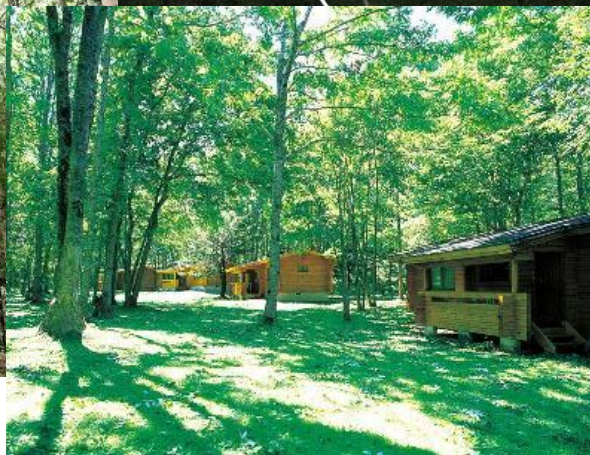
リノベーション1 ステイフィールドアクション (つづき)

○森に泊まる【Forest inn】の設置

※現況：PG場Aコース



※イメージ



リノベーション1 ステイフィールドアクション (つづき)

○キャンピングエリアの設置 (オートサイト)

※現況：運動広場 (西側)



※イメージ



※現況：フォレストハウス



新嵐山展望台

スカイフィールド

・ドックランの併設



ヤスモット (休憩舎)

ハーグゴルフ場

キャンピングエリア

運動広場

オートキャンプ場

ステイフィールド

ステイフィールド

国民宿舎
新嵐山荘

フォレストハウス
(休憩舎)



リノベーション1 ステイフィールドアクション (つづき)

○キャンピングエリアの設置 (グランピングサイト)

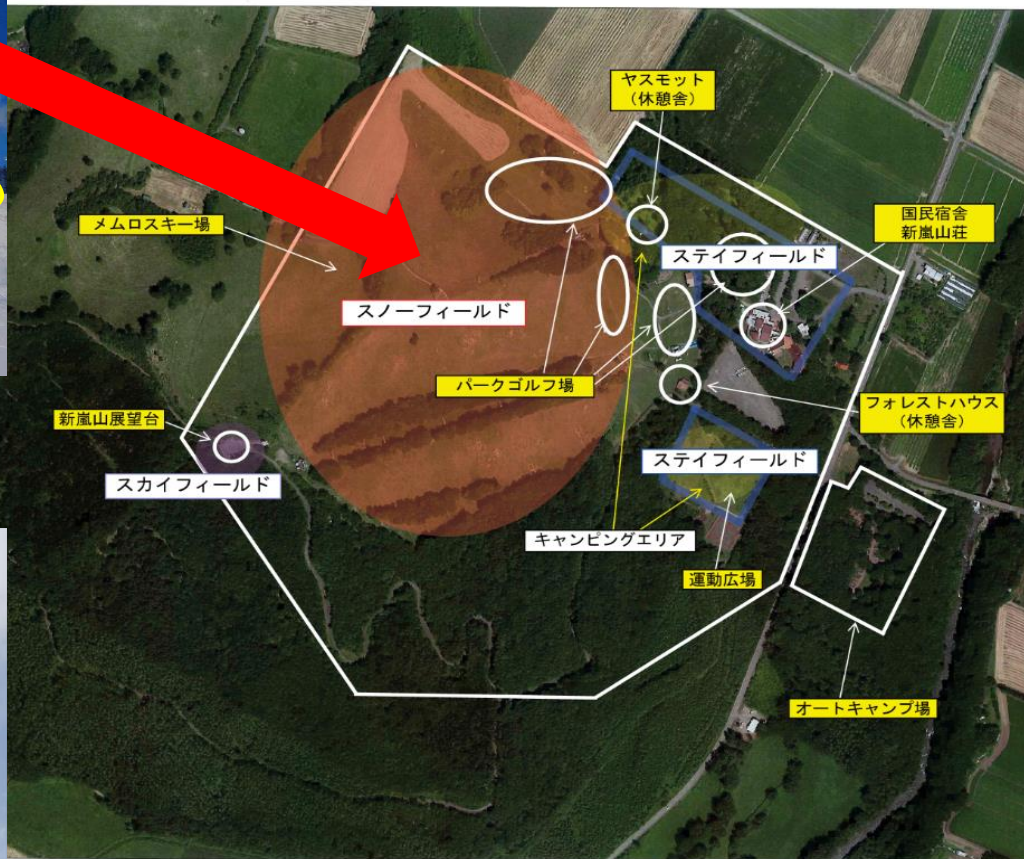
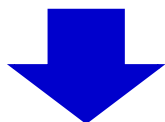


・ヤスマットは管理棟としての機能併設を検討



リノベーション2 スノーフィールドアクション

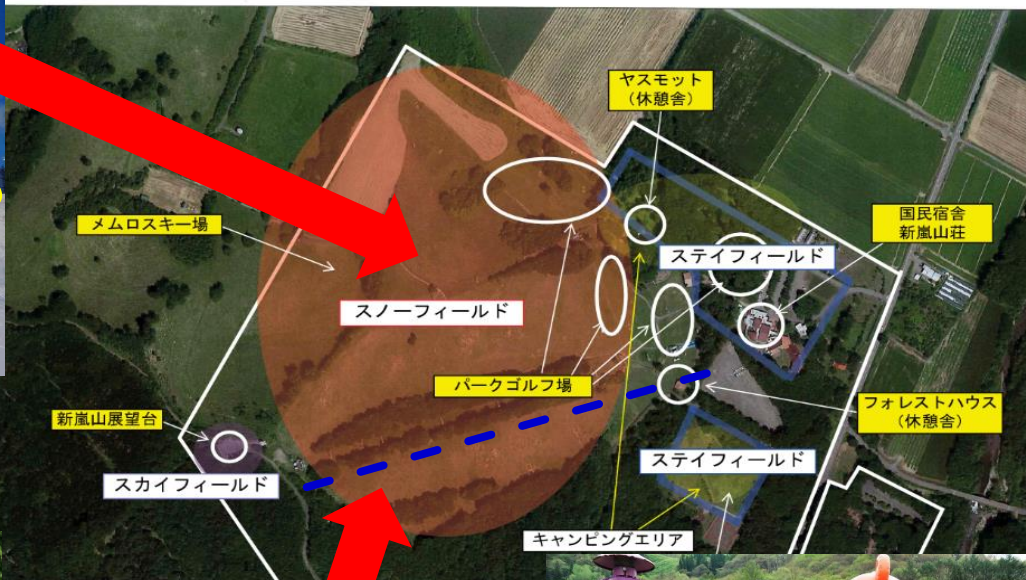
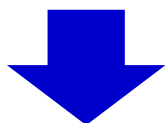
○索道の改修（リフト統合の検討）



0 50.0 100.0 m

リノベーション2 スノーフィールドアクション

○夏場のリフト運行



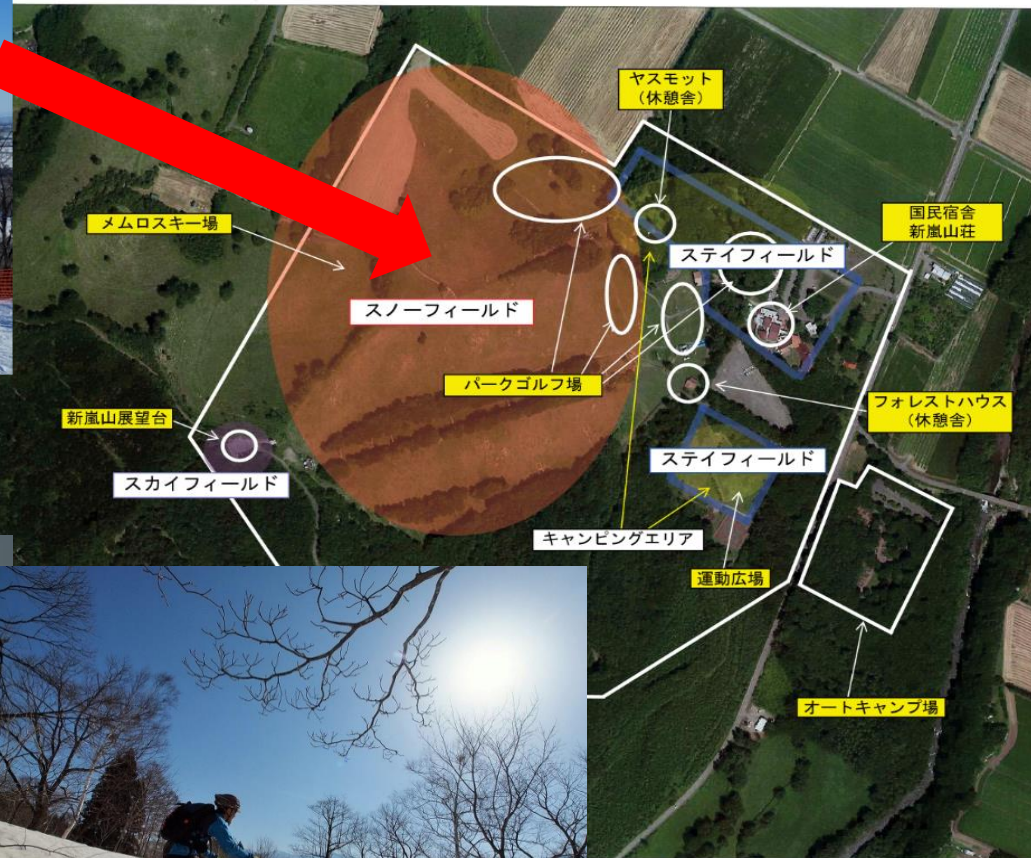
リノベーション2 スノーフィールドアクション (つづき)

○雪を使った遊びの提供

※現況：スキー、スノーボード



機能拡充



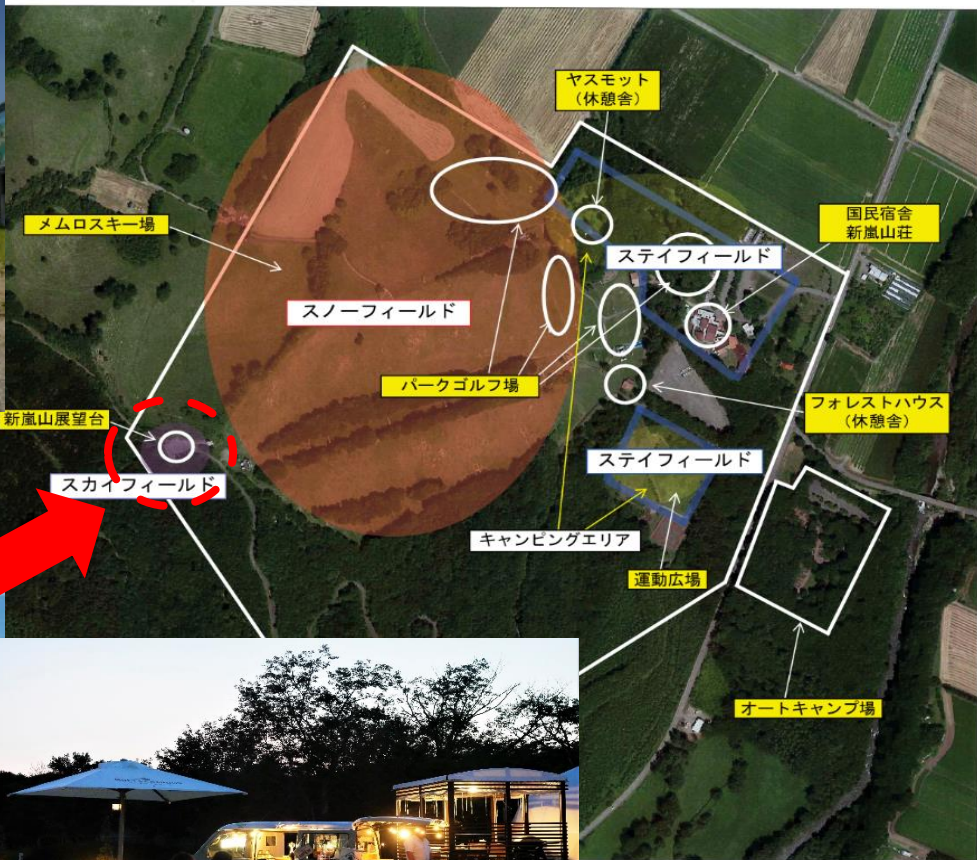
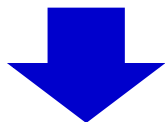
・スノーラフティング



・ファットバイク

リノベーション3 スカイフィールドアクション

- スカイテラスの設置
- 仮設店舗設置による食の提供



リノベーション4 新規フィールドアクション

○牧場の活用

※現況：牧場



・グリーンシーズンのアクティビティフィールドに活用

○運動広場の活用

※現況：運動広場（東側）



・地域資源を活用した新たな魅力づくり
民間事業者との連携 = 土地賃借を想定

リノベーション・プラン【優先順位】

[ステイフィールドアクション]

① キャンピングエリアの設置

- ・オートサイトの設置【2021年（令和3年）】

※運動広場（西側）の一部を使用し、2020年（令和2年）
はフリーサイトとして暫定運営

※冬期間の営業も想定

- ・フォレストハウスの活用【2021年（令和3年）】

② 宿舎（レストラン）のリニューアル【2021年（令和3年）】

- ・ 1階レストランのリニューアル
- ・ 2階レストラン機能の見直し
- ・ 1階休憩室（小上り含む）の活用

リノベーション・プラン【優先順位】

[ステイフィールドアクション]

③宿舎（客室）のリニューアル【2022年（令和4年）】

- ・客室数の見直し

④森に泊まる（Forest inn）の設置【2023年（令和5年）】

⑤キャンピングエリアの設置

- ・グランピングサイトの設置【2023年（令和5年）】
- ・ヤasmottの活用【2023年（令和5年）】

リノベーション・プラン【優先順位】

[スノーフィールドアクション]

①雪を使った遊びの提供

- ・スノーラフティング、圧雪車試乗の導入【実施済】
- ・ファットバイクの導入【2021年（令和3年）】
※2020年（令和2年）は試行期間

②索道の改修

- ・リフト改修【2023～2024年（令和5～6年）】
※一部ゲレンデの補修も想定

③ジップライン導入【2024年（令和6年）】

- ※キッズパークの併設も想定

④夏場のリフト運行【2024年（令和7年）】

リノベーション・プラン【優先順位】

[スカイフィールドアクション]

- ①スカイテラスの設置【2024年（令和6年）】
- ②仮設店舗設置による食の提供
 - ・キッチンカーの活用【2025年（令和7年）】

リノベーション・プラン【優先順位】

[新規フィールドアクション]

①運動広場（東側）の活用

- ・ビジョンに基づくテーマに沿ったエリアづくりに向けた民間活力の導入【2020年（令和2年）】

※運動広場の一部賃借を想定

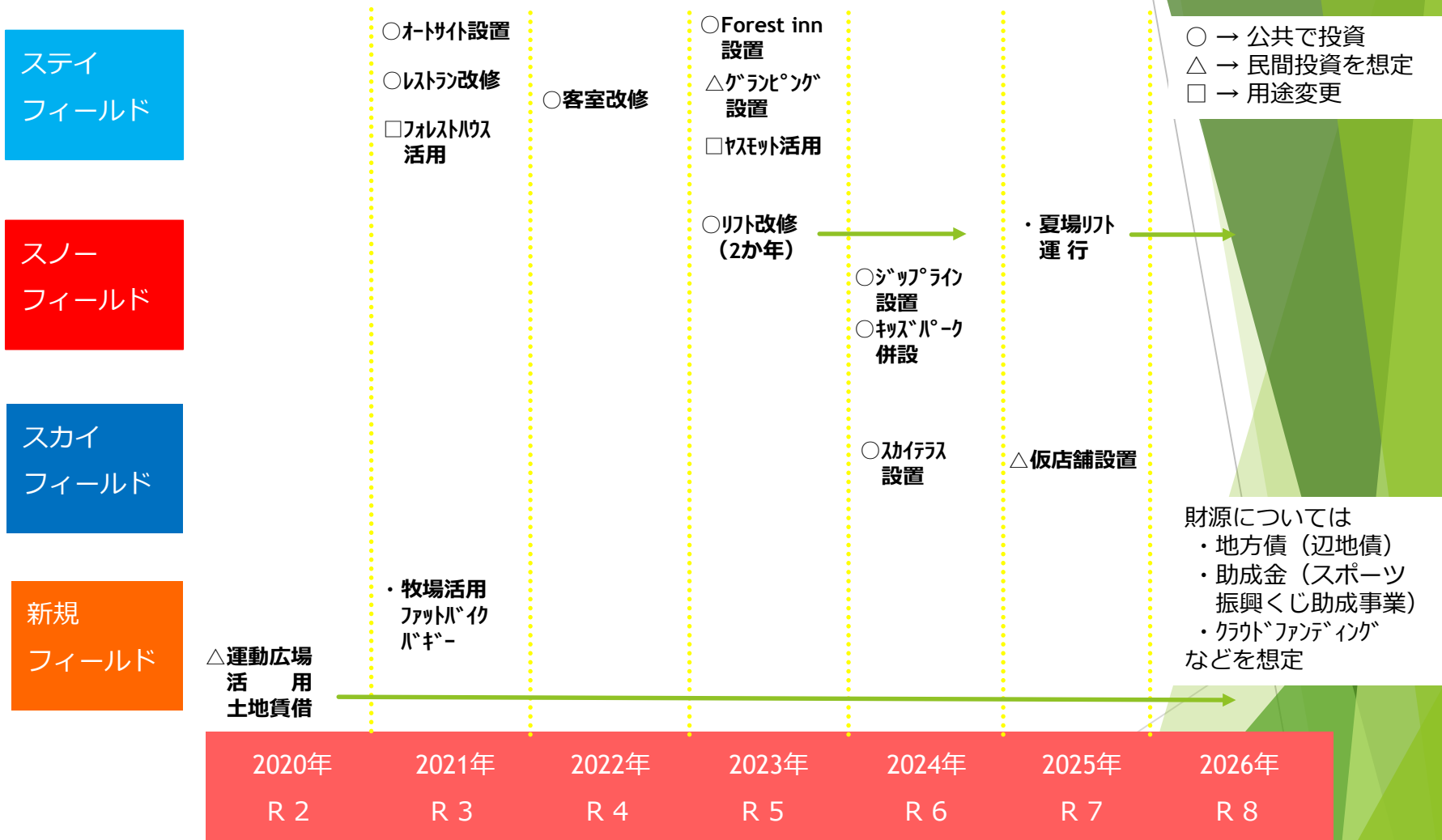
②牧場の活用

- ・ファットバイク、バギーの導入【2021年（令和3年）】

※2020年（令和2年）は試行期間

※グリーンシーズンのアクティビティフィールドとして活用

リノベーション・プラン【ロードマップ】



⑥管理運営の手法（民間活力の導入）

→ 公設民営方式

町が施設等を整備

維持管理・運営を民間事業者に委託

-
- 町が財産（固定資産）として持ち続けることを前提に進めているため、宿舎・スキー場・パークゴルフ場・展望台などの現有施設は公共（町）で整備する。
 - 財源については、地方債（辺地債）や助成金（スポーツ振興くじ助成事業）の活用、ふるさと納税を活用して自治体が行うクラウドファンディングの導入を検討する。

具体的アクション⑥ 管理運営の手法（つづき）

- 委託方式は指定管理者制度を基本とし、維持管理にかかる費用は指定管理料として民間事業者へ支払う。なお、期間については3～5年を想定する。
- 施設（建物・土地）の一部を賃借するケースも想定する。
- 指定管理業務に影響がない範囲での付帯事業を認める条件として、施設使用料の支払いを求める。

⑦新規事業の導入

→ 既存事業の強化を進めた上で、テーマと関連性のある新規事業については、受託事業者との協議に基づき導入検討

町の役割としては、現有施設のリニューアルなど施設整備を担うものとし、新規事業にかかる投資は、原則受託事業者が担うものとする。

多くの人の想いとパワーをかりて
新嵐山スカイパークは生まれ変わります

